

那覇市

繁多川 公民館



館報2016別冊

那覇市繁多川公民館 那覇市立繁多川図書館

開館10周年式典・祝賀会



目次

館長あいさつ	2	離島・遠隔地進学支援GESYUKUプロジェクト	9
1万人規模でのエリアとこれからのまちづくり	3	健康講座や利用者団体連携講座を通して身体と心の健康づくり	10
月1回のいどばたごはん会	4	子ども達と育みあう「生きる力」	11
自治会と共に目指す新しい地域モデルの創出	5	地域の担い手＝グローバルな人材育成	12
繁多川すぐりむんが地域を元気に	6	歩いて見つけよう!身近な防災のマチへ	13
あたいくわープロジェクト	7	ジュニア座談会 これからの公民館に望むこと	14
キバナノヒメユリ保全活動	8	公民館概要:沿革・年譜・施設案内・スタッフ紹介	15

日頃より、那覇市繁多川公民館の活動にご理解ご協力いただきありがとうございます。

当館も平成17年4月2日に開館して以来、多くの皆様によって生涯学習の実践の場、あるいは地域の拠点の一つとして活用いただき、沖縄の地域社会に寄与できたことを深く感謝申し上げます。

公立公民館は、戦後の荒廃の中で、民主的なまちづくりの最前線としてスタートしました。現代では住民の学ぶ機会が多く、また多様化している背景から地域の課題解決や公共的な市民活動の拠点へと役割が拡大しています。つまり地域の赤ちゃんから高齢者が生きがいを感じながら地域で育み支えるしくみ作りが、私たちの大きな使命です。

今回、その新たな使命を明確にし、より地域内外の皆さんと力を合わせて実現するため、館報別冊を作成いたしました。この冊子をきっかけに、市民・自治会・学校・企業によるまちづくりが促進され、真和志地域ならびに沖縄県の発展に寄与することを期待します。

那覇市繁多川公民館

館長 南信乃介



写真：知念盛義(繁多川すぐりむん)

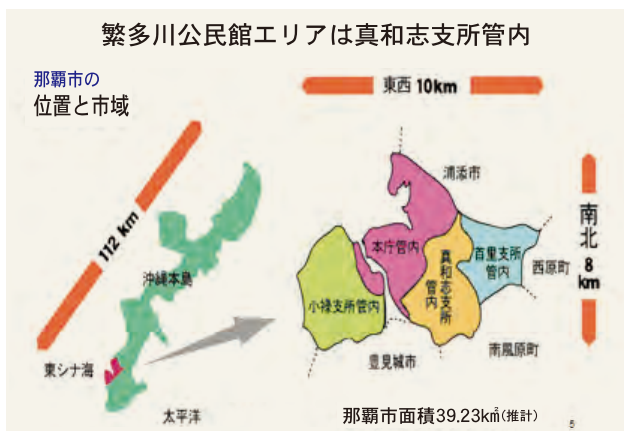
1万人規模でのエリアとこれからのまちづくり

那覇市繁多川公民館は、真和志管内にあり古都首里に隣接し、冊封使を歓待した世界遺産名勝識名園があるなど文化の色濃い所です。また沖縄大学、県立看護大学があり、文教のまちでもあります。主な館別エリアは真和志地域で人口は約10万6千人ですが、生活圏ごと(小学校区人口1万人)で支えられるまちづくりが持続可能でたくましい地域社会に繋がると考えています。

●これまで大切にしてきたこと

繁多川公民館が開館以来、大切にしてきたことは、地域の文化や人々の誇りです。例えば真和志地域の高台に共通する「豆腐作り」であったり、「沖縄戦時の県庁警察部等の調査」、「字指定文化財事業」、「貴重種のキバナノヒメユリ保全」などでした。

このような地域住民と共に掘り起こしてきたものを子どもたちが誇りを持てるようにと学校教育と連動させ、授業づくりに関わってきました。

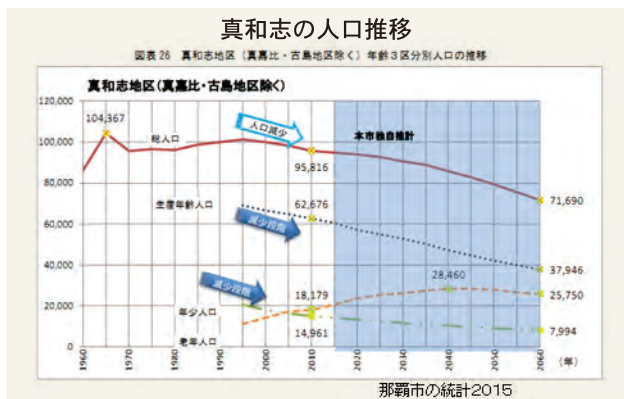


●時代が求めるローカルのたくましさと可能性

私たちは世界でも類を見ない少子高齢化社会を生きることになりそうです。高度経済成長を担ってきた仕組みに歪が生まれ、新しい仕組みが自治体のみならず地域社会にも求められています。

働く世代が減り、福祉の経費が増大する中で公共団体は、人も予算も大幅な削減傾向にあり、現場では教育や福祉分野でも懸命に頑張っていますが増える負担に限界もあります。

ただでさえ、地域を支えてきた地縁組織の担い手不足が叫ばれている中で、どこの誰がどうやって地域社会を明るく持続的なたくましいものにできるのかが問われています。



特定の人たちではなく、行政や公共団体、地縁組織、地域住民が持つ経験や資源を持ち寄ることに可能性があるように感じます。私たちの暮らしを私たちでより良いものにしていくことが地域社会の最先端ではないでしょうか。

仮に那覇市という生活圏(小学校区)は大体1万人です。

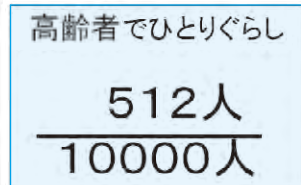
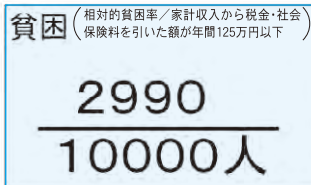
1万人中にどのような人がどのくらい住んでいるのでしょうか。特徴として全国ワーストの貧困29.9%、一人暮らしの高齢者、そのほか孤立しがちな家庭や子どもたちとの向き合い方が重要となりそうです。

厳しい時代ですが、本当の意味で地域をより良いものにする主役に、一人一人が立つ時代だと捉えています。それを具体的に形にする拠点のひとつとして公民館の役割があります。

社会教育には、尊重し学び合う精神があります。また生きがいという無限のエネルギーで個人の経験や知識が社会を繋ぐ力があります。

沖縄県2015年統計調査

那覇市65歳以上
(H25高齢者福祉関係基礎調査)



●より主体的なまちづくりと公民館

近年、繁多川公民館には県内外のみならず海外からの訪問もあります。地域住民と掘り起こしてきたオンリーワンの資源(文化や平和学習、食、ムーブメント)を求めていることに気が付きました。公民館はもっぱら営利的な活動を進めるわけにはいきませんが、地域資源を住民と共に掘り起こし、産業振興の基盤を作る力があるようです。そのような地域の魅力を高める生きたお金が、課題解決の資金になることもあります。

この別冊は、地域住民と公民館がこれからの地域の未来を見据えたアクション集であると同時に、個人、学校、企業、地縁組織と共に「ありたい地域」に歩むためのたたき台として活用いただければと思います。



英国BBCテレビシェフジェイミーオリバー氏、沖縄の島豆腐について繁多川地域の皆さんを取材し、番組で放映された。



地域住民の調査が反映された、沖縄戦時の島田勲県知事、荒井退造警察部長を取り上げたドラマがTBSで全国放送された。



『月1回のいどばたごはん会』 地域のみんなで子育て・親支援

地域で支援の必要な子ども・家庭に対し、学校や自治会、民生委員・児童委員との連携で月に1回、仲間と夕ご飯をつくり過ごす居場所をつくり、関係性を再生し、社会的孤立解消を目指します。

地域資源と連携して 持続可能な仕組みを確立する

社会的孤立の 解消

- ・自治会・青年会・子ども会
- ・すぐりむん(P6)・あたいくわープロジェクト(P7)
- ・中学校区青少年健全育成連絡協議会

市繁多川公民館

- ・青年講座
- ・ジュニアボランティア活動
- ・那覇市放課後子ども教室推進事業「はんたがわ子ども教室」
- ・家庭教育学級
- ・地域の保育所の出張保育「いしだエンジョイ育児」開催
- ・母子保健推進員在籍

市保健所・市保護課及び、地域の産婦人科/小児科と連携

生徒・家庭

いどばたごはん会

共催:Kukulu
事前アフターフォロー
(振り返りミーティング)

- ①Kukulu(NPO法人沖縄青少年自立援助センターちゅらゆいが、那覇市牧志で運営する子どもの居場所づくり)
- ②スクールカウンセラー
- ③公民館スタッフ

民生委員
児童委員

会の情報提供や紹介

スクール
カウンセラー

学校に
戻りやすい
環境づくり

学校現場
(担任)

状況を共有

地域・仲間とつながる入口

訪問送迎



お願い!

※持続可能な活動をするためには、引き続き、食材のご寄贈やご寄付などのご支援を宜しく願っています。

※食材の寄付/これまでに頂いた一例

米・野菜類(玉ねぎ・人参・大根・キャベツ・トマト・ゴーヤーなど)そうめん・飲み物・手作りケーキ・調味料等

※他に、寄付金や米券・商品券(重宝なご寄付です)



集まった食材の数々(一例です)



経済的な貧しさと、関わり合う隣人、仲間がいない暮らし、これが現代の貧困。したがって「孤立」した家族や子どものいないコミュニティをつくるのが、今もっとも求められている活動。「いどばたごはん会」が、出会いと交流の拠点となることに期待します。

加藤 彰彦さん 沖縄大学名誉教授





自治会と共に目指す新しい地域モデルの創出 地域を主体に多様な連携

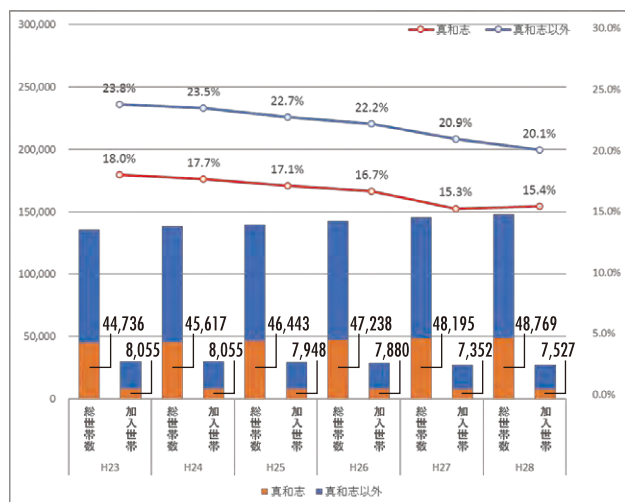
那覇市には158の自治会(平成28年4月現在)があり、地域伝統芸能の保存、子どもたちの学事奨励、地域のお祭り等幅広い活動をしています。更に「自治会」は、小規模だが地域の総意をまとめ、最前線で課題と真っ先に向き合う場所でもあります。

私たちはそれらを踏まえ「識名園友遊会」、「真和志地区自治公民館長連絡協議会」を通して、新しい地域モデルの創出を目指します。

那覇市及び真和志地区における自治会への加入世帯が年々減少している状況で、平成28年4月現在で那覇市で総世帯数147,909世帯、自治会加入率は18.5%。真和志地区で総世帯数48,769世帯。加入率が15.4%。双方とも年々減少している状況です。

そのため、自治会組織そのものが衰退していくと、

- ①防犯・防災力の低下 ②高齢者対策の低下
 - ③芸能保存の断絶 ④地域コミュニケーションの衰退
- など数多くの課題が予測されます。



那覇市全域と真和志地区の自治会加入世帯・率の推移
(協力:那覇市まちづくり協働推進課出典:「自治会活動の手引きより」一部抜粋、加工)



新しい地域モデルの創出へ

(1年を通し、イベント型地域活性化で若年層、企業の地域参入を促し、研修型課題解決で安定した地域セーフティーネットを繋ぐ。二つを連動させ新しい地域モデル創出へ)



繁多川公民館は、真和志地区の自治会と連携をとって、イベント型地域活性化や研修型課題解決などで、身近な地域課題に取り組んでいます。



自分たちの住む地域を自分たちの力で良くしたい。
自治会にはそんな思いを持った人たちが集まっている。中でも那覇市真和志地区は、公民館、学校、行政、企業などと市民、そして自治会が協働して、イベントの開催や地域の問題解決に動いている。元気な自治会が核となり、協働の輪が広がっていくことに期待したい。

真栄里 泰球さん 沖縄タイムス社編集局学芸部芸能班



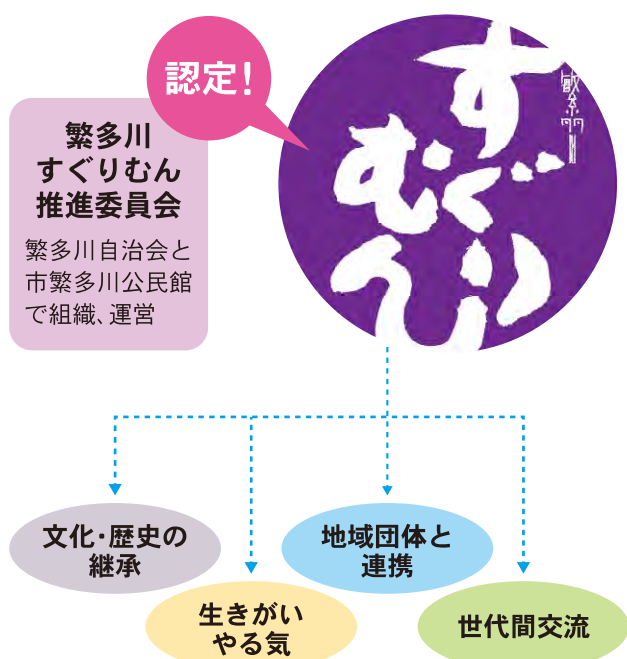


～地域資源としての人材活用～

繁多川すぐりむんが地域を元気に

地域には、ものづくりが得意な人、料理上手な人、地域の歴史や文化に詳しい人、いろんな特技を持つ方々がいます。それら地域資源となる人材の活用は、地域に還元されることによって自身の生きがいやる気につながり、地域においても持続可能な社会をつくる上で必要不可欠な存在です。

すぐりむんとは？ 繁多川地域では、自身の得意分野を活かして地域活動されている方を「すぐりむん(優れた人)」と認定し、地域の行事や、学校活動など色々な場面で活躍しています。



むねしらび(物調べ)
すぐりむん
柴田 一郎さん
先輩から学んだ地域の歴史や文化について、自分もまた子どもたちに伝えていけることが喜びです。



まーさむんつくやー
(美味しい料理作り)
すぐりむん
大城 幸子さん
ちょっとした無理をしながら、でも楽しみながら自分が今できることで地域に協力していきたい。

事例：地域で活躍する「すぐりむん」の活動シーン



臼を廻して大豆をつぶす体験



子ども達へクルマンボウ体験の説明(識名小学校)



シンメナービでゆしどうふづくり (繁多川公民館広場)



TV出演



クルマンボウ体験



おもちゃづくり体験 (識名小学校)



この「繁多川すぐりむん制度」は、繁多川地域の地域づくりの担い手の発掘と育成に大きな役割を持つことになる。

住民一人ひとりが、自分の持つ資源を地域に還元して活動に参加し自己実現をしていくプロセスは、地域づくりの当事者意識を醸成するうえで極めて重要であり、すぐりむんとして、地域のために働くプレイヤーをつなぐ繁多川公民館の活動は、これらの活動に住民が積極的に参加することはもちろんであるが、その根源には住民がやりたいことを実現するための「学び」をいかに定着させていくかがカギとなってくる。住民がやりたいことをやるためにどのようなプロセスを踏むかは、まさに学びである。

高橋 由和さん NPO法人きらりよしじまネットワーク 事務局長





在来大豆(青ヒグ)で昔の繁多川豆腐復活を夢見る あたいぐわープロジェクト

沖縄在来大豆(青ヒグ・高アングー)を地域の人々が栽培・普及して「昔の繁多川豆腐」復活を夢見て「1丁1万円ブランド豆腐を夢見る大作戦」と銘打って、住民間のコミュニケーションの場づくりや活動の機会を広げ、繁多川地域だけに終わらず県内各地のさらなる地域活性化・まちづくりへの取り組みへと広がっています。

始まりは、市繁多川公民館成人講座「繁多川見聞録」の聞き取り調査からのスタートでした。

戦前からこの地域は豊富な井泉の水量と水質を活かした「繁多川豆腐」は、最盛期には40～50軒ほどが豆腐作りを副業として営んでいました。

当時、在来大豆の高アングーや青ヒグを自家栽培して豆腐を作っていたという事がわかり、昔の繁多川豆腐を再現したいとの話がでてきて、各地で探していたところ唯一、沖縄県農業研究センターに保管されている中から、数粒を提供いただき、あたいぐわー(家庭菜園)で増やして、在来大豆による繁多川豆腐の再現する「あたいぐわープロジェクト」へと繋がっていききました。

在来大豆(青ヒグ)の栽培をはじめ、豆腐づくりに必要な道具(クルマボウやニクブクなど)も地域の方々が自主的に、手作りで当時の道具を再現するなどして進めていきました。

さらに、この一連の取り組みは、「総合学習」として、地域内の小中学校だけでなく、広域の学校現場とも連携して取り組み、県内各地の教育機関や団体などにまで広がっていました。

識名小学校・真地小学校・上間小学校では、在来大豆の種まき、収穫、乾燥、脱穀、石臼挽きなど昔ながらの豆腐作り体験を総合学習として定番化しています。又、2010年には、識名小学校で育てた在来大豆(青ヒグ)を宇宙へ送ろう！という壮大なプロジェクトに参加したことは、まさしく夢の繁多川豆腐が誕生するかもしれません。

あたいぐわープロジェクトは、現在活動を有機的に運営するために、自主組織として立ち上げ、市繁多川公民館・繁

多川自治会・上間自治会・かりゆし友の会(真地小ボランティア)と協働して、地域の方々の活躍の場づくりと、子ども達への食文化の継承とさらなる地域の活性化に寄与する活動を続けています。



成人講座「繁多川見聞録」での聞き取り



識名小学校で、大豆(青ヒグ)の種植え



あたいぐわープロジェクト第1回めの収穫



ゆしどうふ



「豆腐の月」イベントでゆしどうふの振舞い



青ヒグパン(いまいパン連携)



協働に向けて公民館が担う役割

地域が子どもを育て、学校も地域づくりに参加する時代が変わってきている中、2007年から始まっているこのプロジェクトについては今の時代の最先端と言っても過言ではない。小中高校から自分たちの地域(足元)を見させることにより、課題が見つかり、人材育成にもつながる。公民館が地域づくりの拠点となる事によって地域創生につながり、那覇市の掲げる協働のまちづくりに合致するプロジェクトであると思う。

山田 義二さん (沖縄県教育庁生涯学習振興課社会教育主事)

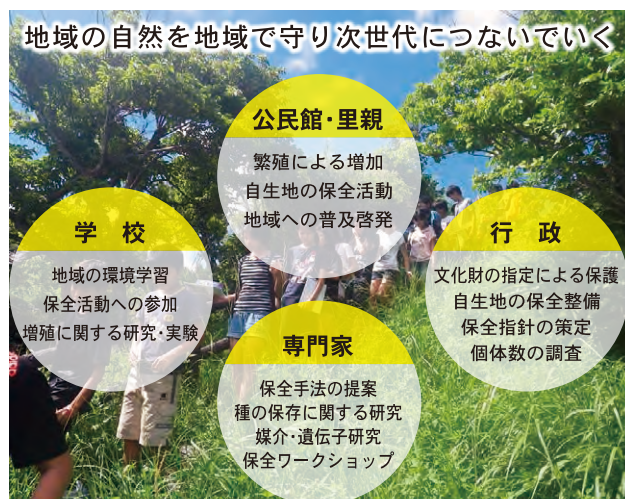




キバナノヒメユリ保全活動 地域の宝を地域で守り育てる

公民館に地域住民から相談があったことから地域で発見された貴重な花「キバナノヒメユリ」を絶滅から守るべく、地域住民が身近な自然とふれあい、保全に関する理解を深めていく中で、自宅でキバナノヒメユリを栽培する里親プロジェクトがスタートしました。それにより地域住民による継続的な保全活動が行政を動かし、天然記念物指定にしようという調査がなされています。こういった様々な関係機関や専門家との連携は、市が進める協働のまちづくりを実践し、地域の「宝」を地域で守る事例となっています。

活動にあたっては、県立南部農林高校、那覇市文化財課、那覇市環境保全課、NPO法人おきなわ環境クラブ、識名小学校、美ら島財団などと連携し、貴重種「キバナノヒメユリ」の身近な自然を活かしながら自然観察や実習を通して保全に努める活動をしています。平成27年度は、エリアを広げ、南城市で「キバナノヒメユリ」を守る活動をされている「キバナノヒメユリ守会」と交流をはかり、それぞれが取り組んでいる保全活動についての意見交換をしました。また、里親を中心にキバナノヒメユリを増やす取り組みの講習会などを開催し、新しい手法を学ぶ小さな第一歩となりました。他地域も含めて、今後の情報交換や交流につなげていきたいです。



キバナノヒメユリの里親講習会



識名小学校の児童と自然観察会



キバナノヒメユリ環境保全活動



県立南部農林高校：キバナノヒメユリの勉強会
識名小学校へ出前講座



■キバナノヒメユリ(ユリ科)

RDB(環境省・沖縄県)：絶滅危惧IA類

※沖縄県では、ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い沖縄島、久米島、渡名喜島に自生する植物で、個体数が少ない。日本産ユリ属の中でもっとも小さい種で、可憐な花が咲きます。



Opinion

「繁多川・識名地域はかつて海だった」という歴史から始まり、昔からあった沖縄の貴重な植物が今もなお残されている。

宅地開発や自然災害にも負けず「キバナヒメユリ」が守られているのは、単に「キバナノヒメユリ」だけを保護するのではなく、地域の方が地域の特性を理解し、誇りを持ち、次の世代に「地域の宝」としてつないでいきたいという想いのある活動だからである。

賀数 弘さん (那覇市環境部環境保全課)





離島・遠隔地進学支援GESHUKUプロジェクト

おかえり!って待っているひとがいる

那覇市に住む高齢者個人宅の空きスペースを活用し、高校進学・大学進学で沖縄本島那覇近辺に進学する離島・遠隔地の共同生活場として紹介し、若い人のチャレンジを、地域で応援するプロジェクトです。

学生は、低額で生活できる代わりに台風などの災害時や買い物代行など身近な生活支援を担う相互支援のプロジェクトです。公立公民館がコーディネートし地域の繋がりから生まれた地域に役割を実感する新しい地域福祉を目指します。

沖縄県には有人の離島39島のうち35島で高校がなく、進学のため遠く離れた那覇市や最寄りの高校進学のためには、高い渡航費や教育費・生活費などの負担が重くのしかかっている現状があります。(平均81,000円/月)。兄弟が多い世帯や収入が十分でない場合、希望する進学先へ行くことを断念する生徒もいます。

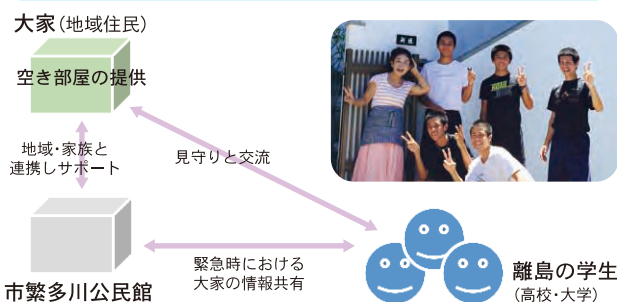
また保護者からは、15歳で親元を離れるため生活習慣を整え身近に相談できる大人がいることを願う声があります。

一方、プロジェクトの拠点である沖縄県那覇市繁多川も高齢化率が29.1%であり、自治会加入率は20%で孤立した高齢者の増加が深刻です。

今回のモデルケースは、沖縄県立沖縄工業高校の生徒6名と独居高齢者とが一緒に暮らしながら、台風などの片づけや買い物代行など軽微な生活支援を若者が行う代わりに、高齢者は空き部屋を安価で提供し、バランスのとれた食事を提供するなど生活習慣を整えながら交流を深めました。

アンケートからは保護者や生徒からの今後の期待も高く、高齢者は生きがいを持って過ごせたとの声がありました。

プロジェクトのイメージ



家主さまの声

隣近所の人との会話も増えました。私の人生に活力を与えたとても大きな出来事でした。また、受け入れたいと思います。

生徒さまの声

駅伝部とのチームワークの向上、そして目上の人への礼儀やコミュニケーションを学ぶことができた。家主の方が貸してくれたおかげで先生とは違い、部活動から帰ってきて食事のあるありがたみを感じることができました。

保護者さまの声

離島から高校に行くのは費用もかかりますし、一番の心配は生活環境です。非行に走らないか、ちゃんと起きて学校へ行っているのか多々心配ばかりです。今回の支援事業とてありがたいことです。



生活の基盤を整えていただいて、部活動や資格に集中できるというのは生徒にとって大きな力になる。また家主との交流を通して親や生徒を支える方々への感謝の気持ちが深まったようだ。家族から離れて生活をしているのが家主から愛情をもらい家族のぬくもりを感じて生活ができており、情緒の安定は皆にみられた。

荻堂 仁さん (沖縄県立名護高校教諭)





健康講座や利用者団体連携講座を通して、身体と心の健康づくり いっとうばい!(さきがけよう)健康長寿の質

沖縄県はかつて「長寿日本一」を誇っていた1995年には「世界長寿地域」宣言をした。ところが、2010年の平均寿命では、女性87.02歳で全国3位。男性は79.40歳で全国30位に転落し、330(さんさんまる)ショックと称されました。

その上、がん・心疾患・脳血管疾患などの生活習慣による死亡が約5割を占め、「メタボリック症候群」の該当者と予備軍も男女とも全国ワーストを記録するほど沖縄県は危機的状況です。

さらに、長寿の質についても沖縄はワーストとなっています。そのために、公民館講座として「健康講座」の開講し、地域をあげての生涯スポーツを通しての身体と心の健康づくりと併せて、公民館の利用団体の方々が指導者として、学んだことを活かすことで社会活動に参加することで、心の健康づくりを行うことで健康寿命を延ばすことを目指します。

長寿の質も、沖縄、ワースト!

平均寿命に締める「健康寿命」の割合(聖徳大学調査)

**沖縄: 男性(全国47位 90.4%)
女性(全国46位 83.7%)**

健康おきなわ21 (第2次)

基本理念: 県民が健康・長寿を維持・継承し、生きがいに満ちた豊かな人生を送ることが大切である

健康講座

「いつでもだれでもどこでも生涯スポーツを通して健康づくり!」

健康＝行動が習慣化＝ストレスにならずに日常化することが大切なキーワードです。

80代すぎりむんの女性の声「来年も豆腐づくりができるよう体操してこようね。」とサークル活動へ向かわれる姿がカッコイイ!

主な講座

「がんじゅう1万人でトーフウォーキング」(H26年度実施)

「がんじゅう1万人で真珠道ウォーキング」(H27年度実施)

「真和志地区スポレク大会ウォーキング講座」(H26/27年度実施)



公民館利用団体連絡会連携講座

「夏休み企画利用者が先生」

公民館を利用している方々による「学んだ事を活かされる社会」を具現化しようと「夏休み特別企画」として、利用者が企画してスキルアップにもつなげるとともに社会とのつながりを維持することで自身の心の健康につながり、長寿の質的向上にも寄与していくといえます。



自強術体験



火おこし伝授



料理指導



茶道入門



なぎなた入門



誰も今の生活が未来を創っていることはわかっている。それでも何が良い習慣なのか? 「たとえば飲酒の機会が増えるのもいいか?」「歩かず車ばかりの生活でいいのか?」みんな、健康に良くないこととわかっていることが習慣化している。しかし、中には繁多川公民館の事例から見えるように自分の時間と価値を交換している＝自己有用感という価値を自然と見出している習慣の関係性を創りつつあり、素晴らしい事例でありどうすればこの良い習慣を日常化できるのか解明し普及していくことを考えている。

金城 芳秀さん (沖縄県立看護大学教授)



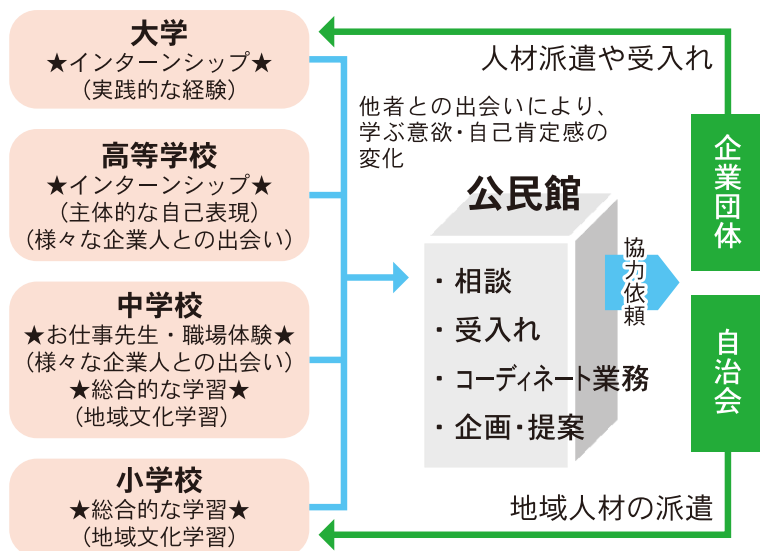


社会人として、確かな学力・豊かな人間性・健康・体力を備えた自立した人を育てる 子ども達と育みあう『生きる力』

子ども達を取り巻く社会環境は、労働環境の急激な変化や家庭環境の変化なども加速する中で大きく変わり、学力の低下や若年無業者が増えてくるなど課題も数多くあります。

地域や企業・団体などと協力し、小学校・中学校・高等学校・大学などを一体化につなげることができるのも、公民館らしい関わりです。キャリア教育に地域が参加することで人と触れ合い、子ども達自身が確かな学力や豊かな人間性の育成など社会人として自立(自律)した人が育つ機会になればと願っています。

地域参加型のキャリア教育 フロー図



☆キャリア教育が必要となった背景と課題☆

- ①社会環境の変化(厳しい雇用情勢に加え非正規雇用率の高さや中卒・高卒時の進路未決定率の高さ)
- ②若者自身の資質(県内の15～34歳で家事も職業訓練もしていない若年無業者(ニート)が2014年平均で1万5千人)
- ③子どもたちの生活・意識の変容(貧困に起因する教育力不足などを背景に悪循環が続いている)



インターンシップ(大学生)



お仕事先生(中学校)



職場体験(中学校)



インターンシップ(高校)



地域文化学習(小学校)



地域文化学習(中学校)

Opinion

今、子ども達に求められるのは、社会の為に自分に何ができるだろうかと考えることのできる「社会参画意欲」と、仕事や社会活動を通して具体的に目の前の課題を解決していける「問題解決力」である。こうした視点で公民館が拠点となり持続可能な形で地域人材とのマッチングが行われ、地域の小学生はほとんどの子どもが「あたりまえ」に地域のおじさん・おばさん、おじいちゃん・おばあちゃんと接する機会を持ち、「あたりまえ」に地域の歴史など良さに触れることができる。子ども達がこの「あたりまえ」を当たり前前に引き継ぎ続け、そして地域の後継者として育っていく仕組みが出来ていくことが、最大のキャリア教育だと期待したい。

弱長 有希さん (有限会社オーシャン・トゥエンティワン代表取締役社長)





～市民性教育・ジュニアボランティア活動を通して～ **地域の担い手＝グローバルな人材育成**

少子化の日本では、1人1人の若者の多様な可能性を広げることが、増々求められています。グローバルな視点で地域を見つめ、仲間達と誇れる宝を発見し、自ら求められる役割を見出すことが重要です。なぜなら世界の70億人の人々には、それぞれの地域がありその文化や誇りに共感し、コミュニケーションをとる力ともなるからです。

公民館では、若者が地域に特化した活動の運営にボランティアとして関わったり、市民性教育として、性の多様性・平和学習・異文化学習などを通し、世界の様々な人と共存していく社会を生み出すグローバルな人材育成を行っていくことが、これからの社会の創造につながると信じ活動しています。

【市民性教育】

市民性教育とはシチズンシップ教育とも呼ばれ、他人を尊重すること、個人の権利と責任、人種・文化の多様性の価値など、社会の中で円滑な人間関係を維持するために必要な能力を身につけることを言います。繁多川公民館では市民性教育の一環として様々な講座などを行いました。



県庁警察部壕見学の様子

繁多川公民館近くにある、自然壕（一部構築壕）。沖縄戦時は、警察や県庁職員の関係者が集まり会議を行った。ここは、平和な社会をつくる精神や、苦境の中のリーダーシップを学べる場となっています。

みんながって みんないい
 ～プレイバックシアターを使い
 L G B Tを考えよう～

繁多川公民館では身近にいる（日本の人口の7.6%）L G B Tについて一緒に考える機会を作ろうとプレイバックシアター（即興演劇ワーク）を用いた講座を行いました。



沖縄のおもてなしを高める
 ハラル文化講座

繁多川公民館では、異文化に触れ・学ぶ事がよりよい国際社会に貢献する人を育てるきっかけになるのではと、この講座を行いました。



【ジュニアボランティア】

地域の中高生を対象に地域に特化したプロジェクト運営にチャレンジしたり、幅広い世代と交流することにより様々な知識やコミュニケーション能力を身につけると共に、将来を担う人材育成を目的に青年講座を行っています。

～これまでの活動～

（地域の特産品のお菓子づくり）

週に1回集まり、地域の特産品（沖縄在来大豆・青ヒゲ）を使用したお菓子づくりを企画。地域の製菓店へのインタビューを行い、試行錯誤しながらも完成。地域のまつりに出店し地域の方に食べて頂いた。

（地域のイベントのお手伝い）

地域で開催される繁多川夏まつりや識名園遊友会などのイベントにスタッフとして、地域の方々と一緒に準備から後片付けまで関わり、まつりやイベントを組み立てる楽しさや意義を学ぶ機会を得た。



子どもたちはまだ「社会性」が育っていないので、広い世界に目を向け、自発的に行動するまでなかなかいかない。そこで大人がそういう場を設定し「まずやってみなさいよ！」が必要である。

我々も「沖縄世界塾」を開催し、いろんなコミュニケーション能力を鍛えたり、世界の現状を伝えたり、どこに行ってもたくましく生きていける人を育てようとしている。また、繁多川公民館の取り組みは「地域の中学・高校・自治会・公民館」連動型で「ごちゃまぜ文化」多世代の人たち（地域の大人や子どもたち）が積極的に主体性を持ってイベントや行事を運営し、多世代の人たちに有効な有意義な交流の場づくりでありすごくいいと思う。「ごちゃまぜ」は地域創生の基本である。

加藤 秀一さん（公益社団法人 青年海外協力協会 沖縄事務所 所長）



～まちのマップづくりをとっかかりに～

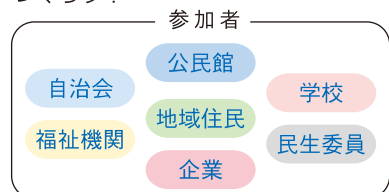
歩いて見つけよう! 身近な防災のまちへ

災害時の自主防災組織の支援や、小さなお子さんからお年寄りまで支援を必要としている方々が安心して暮らしていけるコミュニティづくりを目指して、自治会や学校、福祉機関、民間企業、地域の民生委員児童委員などが連携して地域の「まちマップづくり」を進めています。

マップづくりでは、「まちの魅力」や「災害時に使える情報」をまち歩きを行いながら見つけ、インターネットで見ることのできる専用の「マップサイト」※へパソコンやスマートフォンから投稿し、参加者で情報を共有しながら地域への愛着や防災への意識を高め、今後の非常時の役立て方について考える機会としています。



私たちのまちマップを私たち目線でつくろう!



①まず、まちあるきをしながら気づいたところを写真に撮って、特徴をメモします。

②危険な箇所、避難導線に課題のある場所、地域の名所、史跡などもチェック。



③まちあるきで得た情報を、整理しながらマップサイトへ投稿する内容を考えます。

④写真とコメント(特徴・課題などを50文字以内)でまとめ、マップサイトへ投稿!

⑤参加者で、情報を共有、意見交換を行い、地域で助け合えるしくみづくりを考えます。

以後、定期的に情報を広く深く更新。



「マップサイト」※とは?
繁多川公民館 HP のトップページからいつでもだれでも投稿されたまちの情報を確認することができます。
現在、これまでの講座開催で125件の地域情報がマップサイトへ投稿されました。投稿するにはサポーター登録が必要ですが、1度登録した後は、いつでもどこでも携帯やパソコンから投稿することが可能です。



まちあるきをすることによって、より深く地域を知ることができ、自然と災害に対するセンサーが備わっていく。
まちマップづくりを通して地域の色々な方とのつながりを作ることができるので、今後は近隣の方への声かけやサポート、地域の状況の把握など日常的に活動できる組織の立ち上げなどに期待したい。

稲垣 暁さん (沖縄国際大学・沖縄大学特別研究員)



これからの 公民館に 望むこと



市繁多川公民館は、幼児から高齢者まで世代間を越えた活動など様々な活動をしてきておりますが、日頃公民館でボランティア活動で関わっている高校生に、これからの公民館について、忌憚の無い話を伺ってみました。

Q1 自分の将来について思うことは？

《進路について》

謝花：進路を決める基準や家庭の事情、自分のやりたい事について不安がある。介護職は肉体労働で腰痛もちで心配

兼箇段：やりたい仕事の免許の必要性によって、進学するか就職するか迷う

照屋：沖縄は狭いので、県外に進学したい。お金が稼げる県外がいい

《10年後、どんな暮らしをしたいか》

照屋：定時に帰れて、自分の時間を持つ。うまくいったら就職し、年収600万～700万円欲しい。ブラック企業は嫌。

兼箇段：おっちょこちょいなので事故に巻き込まれていそうと母に言われた

又吉：就職している。県内就職だったらバイクで沖縄一周したい

Q2 公民館で自分の為に なったこと(気づいたこと)は？

又吉：友達が増えた。学校ではしゃべらなかった人とも、公民館ではしゃべるようになって友達になった。

兼箇段：勉強する場を提供してくれている

謝花：高校でバラバラでも、みんなが再会できる場所

照屋：涼しい。でも季節の変わり目がムシムシしててつらい。(クーラーの使用時間が決められているため)

謝花：年齢層が広いから、人との関わり方が勉強できる。

照屋：自分達で企画したキャンプでは、小学生に臨機応変に対応することを学んだ。(公民館主催のキャンプを中学生が企画)

兼箇段：高校別々なのにボランティアに参加するとみんなに会える。

Q3 公民館に期待すること。 やりたいことは？

兼箇段：特に英語圏の外国人と交流できると良い。遊びでも情報交換でも何でも良い(通訳なしで)

謝花：認知症サポーター講座。以前受講してよかったので皆にも受講してみたい。又、気質学・ディベートなどの講座もあったらいい。

又吉：小さい子ども達(2～4歳児)と交流したい。

兼箇段：フリーWifiを入れて欲しい。宿題で調べ物があった時に便利。音楽を聞いたり大学生や若者の利用者が増えるのでは。反面、勉強するスペースが減るのは困る。

照屋：テスト期間中は、ロビーのテーブルとイスを増やしてほしい。又、空いている部屋を利用したい。中学生がうるさく勉強に集中できない。

謝花：進学・就職のための情報(学校のパンフや企業情報など)を置いてほしい。
学校では、進路室に入りづらいし、ゆっくりできない。

Q4

自分の時間を大事に、 充実した働き方をするために、 公民館になが出来ると思いませんか？

又吉・兼箇段：適度なストレス発散や気分転換できるような器具や小道具があると良い。例えば、プチプチやサンドバックなど。

謝花：2～3ヶ月に一回ぐらい、カウンセラーを配置してほしい。学校のは利用しづらい。誰でも利用可能な。

市繁多川公民館利用団体連絡協議会会長・**神村**さんからひとこと

公民館の利用についてや今後の将来の事を考えたり、独特のユニークな要望がある等とても楽しい座談会でした。

大人の視点では中々見落としがちな疑問もあり普段公民館を利用する若者の素直な意見によって、より良い環境になればと思います。自分自身の目標を持ち行動したいと思う事は、大切な事だと再認識しました。

昨今、若者は社会に出る事に対して不安があると思います。その手助けを繁多川公民館には担って頂けたらと考えています。

館長・南からまとめとしてまず、今回出た、フリーWifiは実施できるように検討いたします。又、若者達が自分の時間をきちんと持って、働く時間はきちんと働き、やりがいをもってお金を稼ぐ。こういう働き方を企業も求めていくし、個人も企業も今以上に仕事もプライベートも充実する形に向かえればと感じました。

又、カウンセリングを設置しているところはあまり無いと思い検討してみます。

皆さんが、高校を卒業しても地域の一員として利用できるようにアイデアを思いついたらぜひ教えてください。

本日は、忌憚のないご意見をありがとうございました。これからの那覇市繁多川公民館の活動に活かして、地域に開かれた公民館を目指したいと思っています。



兼箇段 詩織 (かねこだん しおり) 後列左から2番目
沖縄県立那覇高等学校1年

又吉 由姫 (またよし ゆい) 後列左から1番目
沖縄県立沖縄工業高等学校1年

照屋 利音 (てるやりおん) 前列右から1番目
沖縄県立沖縄工業高等学校1年

謝花 明里 (しゃはな あかり) 前列左から1番目
沖縄県立真和志高等学校1年

司 会：**上里 春香** 後列右から2番目
市繁多川公民館スタッフ

コメント：**神村 盛章** 後列右から1番目
市繁多川公民館利用団体連絡協議会会長

コメント：**南 信乃介** 前列真ん中
市繁多川公民館館長

那覇市繁多川公民館 概要



沿革

「那覇市社会教育施設整備計画」(平成5年2月)に基づいて、那覇市で7番目の公民館として計画された繁多川公民館は、繁多川・真地・識名地区の生涯学習の拠点、および真和志地域のまちづくりに関する拠点として、平成15年12月22日建設が着手され、翌年の平成16年11月25日に竣工。平成17年4月に開館した。

施設全体を段差のないつくりとし、広いエレベーターや階段対応のリフトを設置したユニバーサルデザインを採り入れた施設になっており、屋上に降った雨を地下タンクに貯水し、施設内のトイレ洗浄や散水に活用する等、子どもから高齢者や地球環境に配慮した設計がなされている。

開館当初からNPO法人に一部業務委託を行い、平成27年4月より指定管理者制度を採用しNPO法人1万人井戸端会議が受託して運営にあっている。

年譜

平成17年1月15日	NPO法人へ一部業務委託として、NPO法人なはまちづくりネット(代表田端温代)へ委託
平成17年2月10日	館長田島壽博発令
平成17年4月1日	那覇市繁多川公民館発足
平成17年4月2日	市繁多川公民館及び那覇市立繁多川図書館の開館式が行われた。
平成18年4月13日	市繁多川公民館利用団体連絡協議会設立総会が開催された
平成18年11月26日	第一回繁多川公民館まつり開催
平成19年4月1日	館長宇根克が発令
平成22年11月2日	第63回優良公民館として文部科学大臣表彰を受ける
平成23年4月1日	館長新垣絹代が発令
平成25年3月28日	地域連携の継続的な活動により、第14回「朝日のひのび教育賞」を受賞する
平成25年4月1日	館長高吉情次が発令
平成26年4月1日	NPO法人1万人井戸端会議(代表南信乃介)へ一部業務委託
平成27年4月1日	NPO法人1万人井戸端会議へ指定管理者受託
平成27年4月1日	館長南信乃介が発令

施設ご利用案内

開館時間: 午前9時～午後10時

休館日: 祝日・慰霊の日(6月23日)
年末年始(12月29日～1月3日)

利用申込: 公民館使用許可申請書を窓口へ提出すること

窓口対応時間: 月曜日～金曜日午前9時～午後5時

施設使用料

	3F・ホール 収容人数: 200名程度 用途: 講演会・発表会など 備品: イス・テーブル等 料金: 室料930円、冷房料300円
	3F・和室 収容人数: 12畳×2間 用途: お茶・生花・着付けなど 備品: 低テーブル等 料金: 室料240円、冷房料100円
	2F・研修室1 収容人数: 30名程度 用途: 研修会・会議など 備品: イス・テーブル等 料金: 室料320円、冷房料100円
	2F・研修室2 収容人数: 20名程度 用途: 研修会・会議など 備品: イス・テーブル等 料金: 室料240円、冷房料100円
	2F・実習室 収容人数: 30名程度 用途: 研修会・会議など 備品: イス・テーブル等 料金: 室料240円、冷房料100円

スタッフ紹介



南 信乃介 館長

續 洋子 担当/ 家庭教育学級、いしだエンジョイ育児
いどばたこはん会、放課後子ども教室
社会教育研究会、那覇市母子保健推進員(真和志地区担当)

大城 健正 担当/ あたいぐわープロジェクト
少年教室、石田中1年生総合学習、キャリア教育、
高齢者「出前講座」、高校生ディサービス実習

上原 まどか 担当/ 成人講座「身近な防災・見守りネット事業」・
「貴重種キバナノヒメユリ保全プロジェクト」ロビー展

西平 博人 担当/ 識名園友遊会
真和志地区自治公民館長連絡協議会・スポレク

上里 春香 担当/ 青年講座「ジュニアボランティア」
新春もちつき会

岸本 麻子 担当/ 会計



那覇市 繁多川公民館

指定管理者：NPO法人1万人井戸端会議
〒902-0071 沖縄県那覇市繁多川4-1-38
電話 098-917-3448 FAX 098-835-4903
mail：10000idobata@gmail.com
HP：http://www.hantagawa-kominkan.com/

アクセス

広域図(真和志エリア)



公民館周辺図

バスご利用の場合

那覇バス 5番・識名牧志線「繁多川」下車
14番・牧志開南線「繁多川」下車
※駐車場はありません

那覇市 繁多川公民館 館報別冊

発行日：平成28年(2016)3月28日
発行：NPO法人1万人井戸端会議
制作：株式会社 プロダクツ・プランニング
印刷：沖縄高速印刷株式会社

